

平成5年10月1日発行  
兵庫県教育委員会  
埋蔵文化財調査事務所

神戸市兵庫区荒田町2-1-5  
〒652 TEL 078-531-7011  
FAX 078-531-7014

# ひょうごの遺跡

## 日本最古の方形周溝墓群 発見！

ひがしむ こ  
——尼崎市東武庫遺跡（弥生時代前期）——

尼崎市の住宅建設予定地の発掘調査で、このほど弥生時代前期（約2200年前）の方形周溝墓が22基も見つかりました。

方形周溝墓とは、周囲を溝で四角く区切った弥生時代に特有の墓のことで、土を盛り上げて造るため、古墳の原形とも言われています。

今回の調査で、弥生時代前期の方形周溝墓が見つかったことには3つの意義があります。第1の意義は、これまでに全国で発見されている中で最も古い、弥生時代前期のものであることです。これによって、この地域にいち早く弥生

文化が根づいていたことがわかりました。

第2の意義は、墓が村から離れたところにまとめて造られているということです。弥生時代中期には、墓地と集落とが分かれていることが知られていましたが、今回、弥生時代前期にまでさかのぼることがわかりました。縄文時代から弥生時代へとうつりかわったことによって、社会にも変化が訪れたようです。

第3の意義は、墓の大きさに差があることです。表紙の写真は、今回見つかった墓の中で最も大きな10号墓で、一辺が13mもあります。



最大の10号墓（13m×12m）





# 東武庫遺跡のすべて

四角く見えるのが墓（方形周溝墓）です

→ こちらに当時の村があったようです

一番古い土器  
がみつかった場所

木棺の底板が  
残っていました

ここから土器棺が  
みつかりました

周溝の四隅が切れています

最も大きな墓です

ここに陸橋部（溝の途切れ  
たところ）があります

一番古い墓です

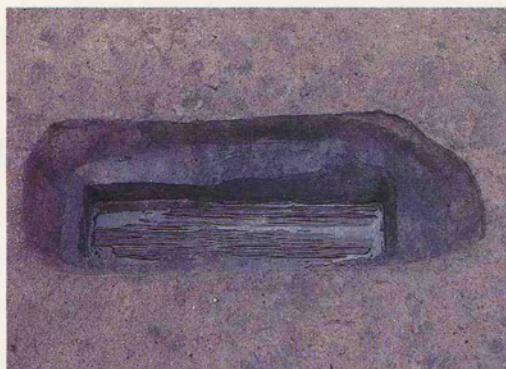
みつかりました  
ここから櫛の破片が

無文土器（朝鮮半島の土器）が  
みつかりました

一番新しい（弥生時代  
中期初め）墓です







腐らずに残っていた木棺の底板

左の写真で他の墓と比較してみると大きさの違いがよくわかります。このように、墓の大きさに差があったということは、弥生時代の初めから、すでに身分的な上下関係が出来上がっていたことを物語っているのかも知れません。

この他に、墓の形にも、溝の隅が途中で途切れているものや、向きの違うものがあります。また、死者を納める棺にも、木棺や土器棺などがあります。木棺はほとんどの場合は腐ってなくなっていますが、上の写真は、底板が残っていたものです。これらの痕跡から見ると、木棺の構造には2種類あったことがわかります。これ以外にも土壙墓と呼ばれる単なる穴だけの掘った墓も見つかっています。これら墓や棺の形の違いなど、細かい点を分析することで、これ



出土した供献土器

らの人々がどこからきたのか、また、集団内部での地位の違いなどの差があったのかといったことが判ってきます。

当遺跡から出土した遺物はあまり多くはありません。そのほとんどが墓に供えられたり、土器棺として使用されたものなので、完全な形をしたものが多いことが特徴です。上の写真はその一部で、文様や形態から弥生時代前期の土器であることがわかります。中でも特に、一番右側の土器は文様のない珍しい形の壺で、朝鮮半島で出土する「無文土器」に似ており、渡来人がもたらした可能性も考えられます。

このように東武庫遺跡は、弥生文化が国内に広がっていく過程と当時の社会構造を知る上で全国的に注目される遺跡です。

## 参考 兵庫県下の周溝墓



弥生中期の周溝墓（神戸市西区玉津田中遺跡）

玉津田中遺跡では46基以上の方形周溝墓が確認されましたが、なかでも41基もみつかった木棺の残り具合の良さには驚かされました。写真は23号墓の木棺で、棺内には人骨も残っていて、遺体を納めた様子が良くわかります。



弥生後期の周溝墓（神戸市東灘区深江北町遺跡）

弥生時代も後期になると大阪湾沿岸部を中心に円形をした周溝墓が増加します。深江北町遺跡で発見された墓は、弥生時代終末期に相当する3世紀頃のもので、直径6～7mの規模の小さな円形周溝墓が12基以上みつかっています。



## 特集 発掘現場をたずねて

われわれ“ひょうごの遺跡”取材班は発掘現場をたずねてみました。最近新聞で、県下で初めて出土！とか、最古の〇〇発見！とかいった記事をよくみかけますが、実際の発掘調査ってどんなふうにしてるんでしょうね？きょうは、そこのところを調べてみたいと思います。

### 発掘調査はパワーショベルに始まります

えーッ、機械で掘るんですか？  
掘りすぎたりしませんか？

あらかじめ試掘して深さを確かめてありますし、土の質を見極めながら少しずつ皮をめくるように掘り下げていきますから、安心してください。



ふりだし

削ったあとが平らになるように  
ツメのないものを使います

目的の深さに近づくと、そこから先は人手  
で掘り下げます

結構重労働ですね。

はい、発掘というと、竹べらやハケを使って掘るものとみなさん思っておられるようですが、ほとんどの作業はこのような力仕事なんです。竹べらやハケを使って掘るのは、ほんの一部の大事な部分だけです。

### 遺構を探します

目的の地面に達すると、住居跡などの遺構を探すために、ていねいに地面を削ります。

どうやって遺構をみわけるのでですか？  
一度人間の掘った穴は、全く同じ土では埋まりませんから、土の色や質・固さなどの違いを手がかりに遺構を探します。

そんなに簡単にわかるものですか？  
分かりやすい遺跡でしたら、誰にでもすぐにわかります。でも、どこにどんな遺構が埋まっているのかわかりませんから、最も大切な作業なんです。

遺構をみつけれられるかどうかポイントなんです。



黒くて円くみえるのが住居跡です





あがり

## ■図 面

図面はどうやって作るんですか？

図面は、1/20程度の縮尺でひとつひとつを測りながら、手描きで作ります。山間部や、広大な面積を調査する場合には、航空測量とって、ヘリコプターから撮影した写真を基にして精密な地図を作ると同じように図を作ることもあります。

## 記録を作成します

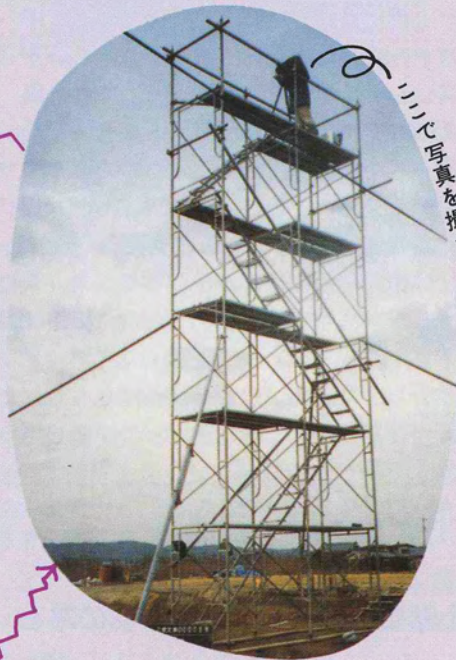
発掘調査は正確な記録を残さないと調査とは呼べません。ですから、写真や精密な図面の記録を取ります。



土器が出てきました

これらの作業を終えて、ようやく現地での調査が完了します。

こうして現地での調査が済んでも、出土した遺物を整理して調査報告書にまとめるまでまだまだ出土品整理の時間が必要です。



ヘリコプターから撮影しています

## ■写真撮影

あんな高いところに登って写真を撮るのですか？

広い範囲を撮影する場合は工事現場で使う足場を組みます。また、鮮明な写真を残すために、フィルムの大きな大型カメラを使って写真を撮ります。

写真屋さんが使うようなカメラですね。  
はい、同じものです。

## ようやく遺構を掘ります

土の溜まり具合を調べながら、丁寧に掘ります。掘るというよりも、埋まった土を取り除くといった感じですね。

なるほどよくわかりました。



## シリーズ “遺跡を掘る”

あし あと 足 跡 (出石町入佐川遺跡)

発掘調査で見つかるものといえば、古墳や<sup>たてあな</sup>竪穴住居跡、土器・石器などを思い浮かべますが、時には意外なものが掘り出されることがあります。

入佐川遺跡では、古墳時代の田んぼの跡がみつかりました。洪水でアッという間にたまった砂を取り除いていくと、田んぼ特有の真っ黒い土が顔を出しました。そして所々に深く入り込んだ砂の形を注意深く見ていくと、なんとこれが人の足跡でした。今から1500年ほど前にこの田を耕していた人の足跡です。横にある現代人の足(26cm)と大きさを比べてみて下さい。

弥生時代に米作りが伝わって以来、米は日本人の主食として作られ、食べられ続けてきました。あちこちで様々な時代の田んぼの跡が発掘され、米作りの歴史が明らかになっています。

田んぼに足跡が残るのは当然かもしれませんが、でも、まさか発掘調査でふたたびこの世に現れるとは、この足跡だって予測していなかったことでしょう。



入佐川遺跡でみつかった古代人の足跡

## ここだけの遺物のお話

土器に残された木の葉や<sup>もみ</sup>籾のあと

土器の底に木の葉の跡がついている場合があります。これは土器を作るときに木の葉を敷いて回しやすくしたり、型に粘土を押しつけて作る時に型から剥がしやすくするためです。木の葉の種類や大きさから、土器作りの季節がわかるかも知れません。

また、土器には稲の籾跡がついていることもあります。これは、土器を作っている場所での脱穀など、稲の籾がこぼれるような作業も<sup>どうたく</sup>こなっていたことを示しています。銅鐸に描かれた絵では、脱穀は女性の仕事です。土器作りもたぶん女性の仕事だったのでしょね。



玉津田中遺跡出土土器▶



## あの遺跡は今…

なの か いち

## 七日市遺跡 (氷上郡春日町)

七日市遺跡は昭和59・60年に兵庫県教育委員会が発掘調査した遺跡で、旧石器時代(約20000年以前)、弥生・古墳時代(2100～1500年前)、奈良・平安時代(1300～1000年前)の各時代にわたる大遺跡であることがわかりました。特に、旧石器時代の遺跡は、近畿地方最古かつ最大級の遺跡として調査時点から全国的な注目を集めたものでした。

写真1は弥生・古墳時代および奈良・平安時代の住居跡や溝跡、無数の柱穴を撮影したものです。沢山の事柄がこの調査で判明しました。発掘調査の終了後には、遺跡の上に舞鶴自動車道の春日インターチェンジが造られて、現在では多くの人達に利用されています(写真2)。

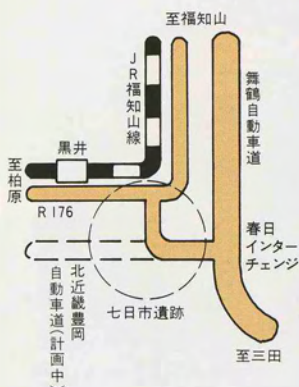
この春日インターチェンジを起点にして、今回新たに但馬地域とを結ぶ基幹道路として北近畿豊岡自動車道が建設されることになり、当事務所では、建設予定地内の遺跡の範囲や性格を確認するための調査を行いました(平成5年5～7月、写真3)。そして新たに遺跡が見つかった所については、本格的な発掘調査を始めたところです。



写真1 昭和59年、発掘調査当時の七日市遺跡



写真2 現在の春日インターチェンジ



昭和60年当時の調査成果を報じる『ひょうごの遺跡』8号

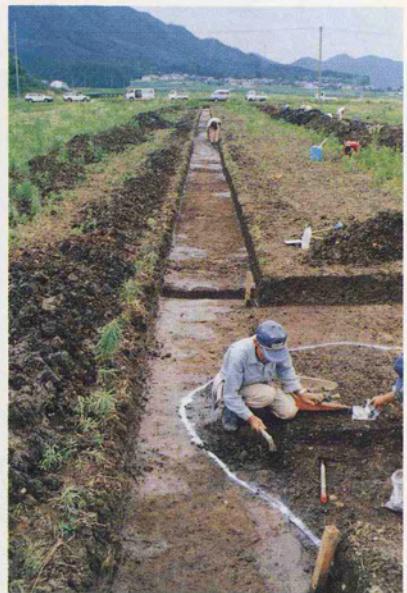


写真3 遺跡確認のための調査



## 特別展のご案内 —発掘が語る兵庫の歴史—

当事務所では、毎年秋の恒例となりました、埋蔵文化財特別展示を今年も下記の予定で行うことになりました。

第9回目を迎えた今年のテーマは、最も基本的な出土品である土器に焦点をあて、その歴史や製作技術などをわかりやすく解説します。

県下出土の一級資料を交えながら、できのび実物に触れていただける展示を計画しております。あわせて下記の講演会等も予定していますので、ぜひご来場下さい。

テーマ 平成5年度特別展

### ドキ<sup>ド</sup>キ土器体験

会 期

平成5年10月24日(日)～11月7日(日)

(入場無料、期間中は無休)

時 間

午前10時～午後4時半(入場は4時まで)

講演会

平成5年11月4日(木)午後3時～4時半

講師 佐原 眞 国立歴史民俗博物館副館長

解説会

平成5年10月30日(土)午後1時半～

発掘調査速報会(スライド会)

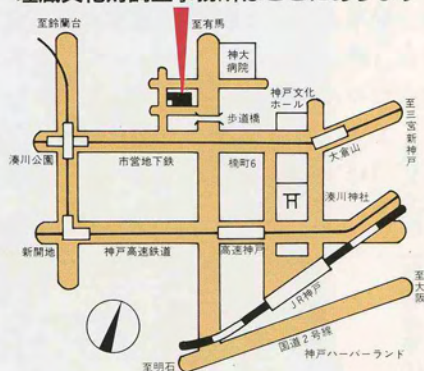
平成5年11月6日(土)午後1時半～

発表者 当事務所職員



発掘調査中の白沢窯跡(加古川市上荘町)

埋蔵文化財調査事務所はここにります



(愛称: ココロン)  
“ころも豊かな兵庫”を  
めざして

兵庫のまつり



ふれあいの祭典

### 編集後記

▷今号では平成4年度から継続で調査した東武庫遺跡をとり上げました。弥生時代の始まりを明らかにする上で注目される遺跡です。▷特集で発掘調査の手順を紹介しました。実際にはいろいろな遺跡があって、調査の手順も異なりますが、最も基本的な調査方法を紹介しました。発掘現場の様子を少しでもおわかりいただけたでしょうか?▷新しい不定期連載企画として、遺物の紹介と、過去に調査した遺跡が今はどうなっているのかを紹介するコーナーを設けました。▷紙面についてのご意見がございましたら“ひょうごの遺跡”編集担当までご連絡下さい。